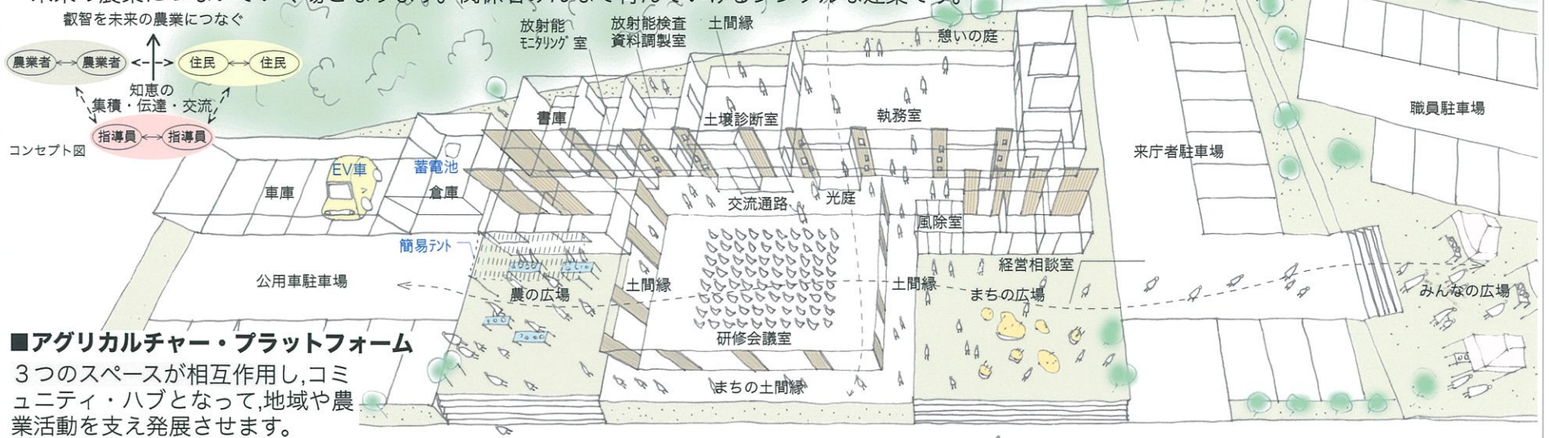
「県中農林事務所須賀川農業普及所整備」基本・実施設計業務　公募型プロポーザル

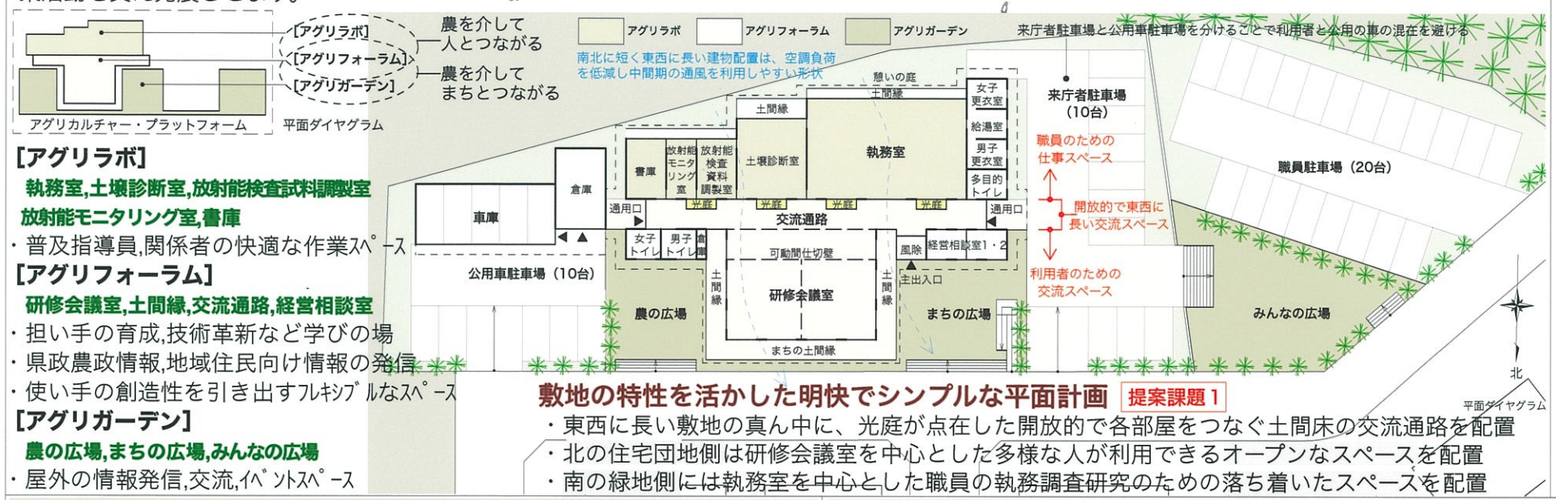
叡智をつなぎ 未来をつなぐ アグリカルチャー・プラットフォーム

私たちは、新しい農業を担う人・もの・地域を創り出すための拠点、アグリカルチャー・プラットフォームとしての農業普及所を提案します。
普及指導員、農業者、近隣住民による活発な情報交換や調査研究が行われます。専門的な知恵の伝達、多様な知恵の集積と交流が叡智となり未来の農業につないでいく場となります。関係者みんなで育んでいけるシンプルな建築です。



■アグリカルチャー・プラットフォーム

３つのスペースが相互作用し,コミュニティ・ハブとなって,地域や農業活動を支え発展させます。



[アグリラボ]

執務室,土壌診断室,放射能検査試料調製室
放射能モニタリング室,書庫

・普及指導員,関係者の快適な作業ｽﾍﾟｰｽ

[アグリフォーラム]

研修会議室,土間縁,交流通路,経営相談室

・担い手の育成,技術革新など学びの場
・県政農政情報,地域住民向け情報の発信
・使い手の創造性を引き出すﾌﾚｷｼﾌﾞﾙなｽﾍﾟｰｽ

[アグリガーデン]

農の広場,まちの広場,みんなの広場

・屋外の情報発信,交流,ｲﾍﾞﾝﾄｽﾍﾟｰｽ

敷地の特性を活かした明快でシンプルな平面計画　提案課題１

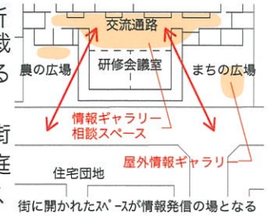
・東西に長い敷地の真ん中に、光庭が点在した開放的で各部屋をつなぐ土間床の交流通路を配置
・北の住宅団地側は研修会議室を中心とした多様な人が利用できるオープンなスペースを配置
・南の緑地側には執務室を中心とした職員の執務調査研究のための落ち着いたスペースを配置

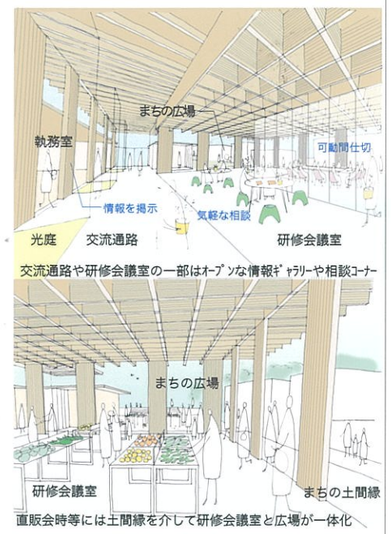
1.農を介してまちとつながる [アグリフォーラム]×[アグリガーデン]

周辺地域と共生する施設の在り方に関する提案　提案課題１

1-1 まちに開き，情報を発信する場

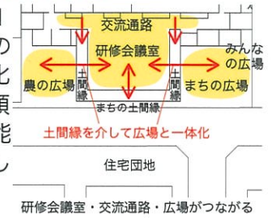
・交流通路は気軽に訪問し情報を閲覧できるギャラリー
・研修会議室の一部は普段は開放し、気軽に相談等の打合せができるオープンな場所
・広場は、試験栽培種や推奨栽培種等の展示にも使用できる屋外の情報ギャラリー
・交流通路と研修会議室は、街から様子が見え、広場や光庭から光が入る明るいスペース





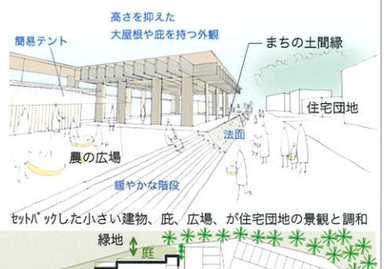
1-2 内外が多様につながる活動の場

・研修会議室は、3方向に開口があり、大屋根の軒下空間の土間縁を介して広場と一体化
・３つの広場はイベントの種類に応じて多様な使い方が可能
・交流通路も軒下空間に連続し内外一体化した使用が可能



1-3 まちと調和する配置・スケール・外観

・住宅団地側に広場や駐車場を設けて、研修会議室以外は建物をセットバックさせ住宅地への圧迫感を軽減
・住宅団地の南北を貫く道路の終点に広場が設けられ、住宅団地から視認性が高く身近に感じられる施設
・建物を幾つかの小さいボリュームに分割し、住宅スケールとすることで、周囲への圧迫感を軽減
・建物の庇が、軒下空間を持つ住宅団地の景観と呼応



1-4 周囲に馴染ませるランドスケープ

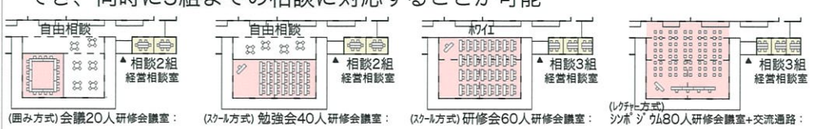
・住宅地側は、道路との段差を緩やかな階段、緑化した法面、植栽帯を設け、住宅地に馴染むランドスケープ
・南側は、庭を設けた隣地の緑と連続した景観

2.農を介して人とつながる [アグリフォーラム]×[アグリラボ]

次世代の農業普及所としての施設機能の実効性確保に関する提案　提案課題２

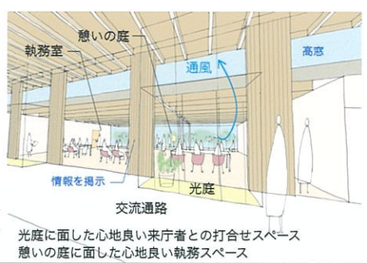
2-1　使い方に応じて空間が柔軟に変化する

・研修会議室は３分割も可能な可動間仕切で20～80人の使い方に柔軟に対応
・研修会議室と交流通路の間も可動間仕切で仕切り相互に一体的な利用が可能
・経営相談室は間口の広いワンルームとし、可動間仕切で２分割または３分割でき、同時に3組までの相談に対応することが可能



2-2　アグリラボの有機的な連携と心地よい光と風が多様な活動をｻﾎﾟｰﾄ

・各間仕切壁にある扉で直接往来が可能
・南側の軒下空間と交流通路に面し内外の共有空間で往来が可能
・南側の軒下空間は外部作業や休憩の場
・光庭に面した心地良い交流の場



3. 農の建築の知恵を現代の技術で継承する　開放的な空間でありながらNearlyZEBを実現、県産材の魅力を発信する新しい木構造　提案課題３

3-1　新しい環境技術と伝統的な環境技術を組み合わせたサスティナブルな建築

空調ゾーニングと空調方式

・空調ｿﾞｰﾝは研修会議室とｱｸﾞﾘﾗﾎﾞ各室とし、空調換気方式共に床下に機器を設置し、木造架構の美しさを表現しながら、省ｴﾈﾙｷﾞｰ性と快適性（冬期の冷えない床等）を向上させる
・空調方式は空冷ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝとすることで、操作維持管理を容易にし、高効率運転を実現

創エネルギーは太陽光発電、災害時供電はEV車併用

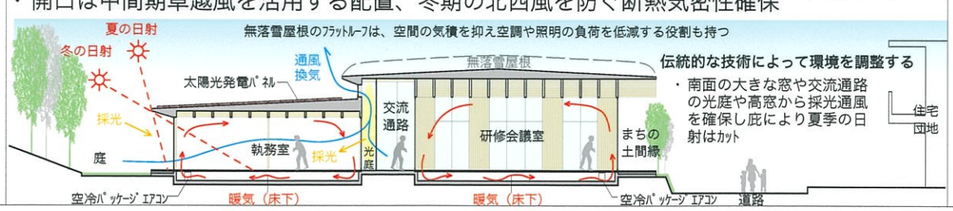
・創ｴﾈﾙｷﾞｰとして太陽光発電(30kw)を設置。系統連系で利用し余剰電力を蓄電池(15kw)に蓄電。蓄電池をﾋﾟｰｸｶｯﾄに利用しﾗﾝﾆﾝｸﾞｺｽﾄ低減と災害時対応、EV車と併用でﾚｼﾞﾘｴﾝｽ対応

ZEB化への新たな視点と課題

・NearlyZEBを目指すため、ｴﾈﾙｷﾞｰ使用をﾘｱﾙﾀｲﾑで表示するBEMSを使用し職員や利用者ともに省ｴﾈﾙｷﾞｰに意識的に参加する仕組み(環境行動)を構築

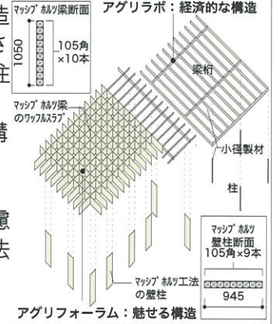
季節に応じた空調の考え方

・外皮と開口部の十分な断熱性能を確保して中間期を長く取り自然通風を活用し、事務所建築の消費エネルギーの約半分となる空調換気ｴﾈﾙｷﾞｰを半減
・開口は中間期卓越風を活用する配置、冬期の北西風を防ぐ断熱気密性確保



3-2　農家の大屋根に習う小さい材で大きく作る新しい木構法

・小部材を集め組合せて、大きな空間を覆う構造
・アグリフォーラムは、屋根は小径製材を積層させたﾏｯｼﾌﾞﾎﾙﾂ梁で構成されたﾜｯﾌﾙｽﾗﾌﾞとし、柱兼耐震壁のﾏｯｼﾌﾞﾎﾙﾂ壁で支える魅せる構造
・アグリラボは、住宅ｽｹｰﾙの小径製材によって構成された合理的かつ経済的な構造
・一般的に流通する製材（長さ6m、成300㎜以内）を使用しｳｯﾄﾞｼｮｯｸでの材の安定供給を考慮
・地域材を使用した地元施工者で対応できる構法
・構造材を室内に現し、木の内装材を採用した、木の温かみと県産木材の魅力を伝える場
・ｼﾝﾌﾟﾙな形に既製汎用建材を使用しﾒﾝﾃﾅﾝｽを容易にしてﾗｲﾌｻｲｸﾙｺｽﾄを削減



4.　農を介して地域と共にある施設　提案課題３

4-1農を感じるｻｲﾝ・色彩

・間伐材を利用した温かみのあるｻｲﾝ
・内外仕上や家具等に和の色を使う優しい色彩計画

4-2 ﾌｪｰｽﾞﾌﾘｰなｺﾐｭﾆﾃｨ・ﾊﾌﾞ

・日常から気軽に立寄れる開放的な場とすることで非日常時にも身近な防災拠点として機能

4-3 設計段階でﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ開催

・新規就農者、ﾍﾞﾃﾗﾝ農業者、近隣住民による、地域の人達も巻き込んだﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの開催